Ⅳ－21　パタン認識から見た繁華街街路のパタンとその照合指標

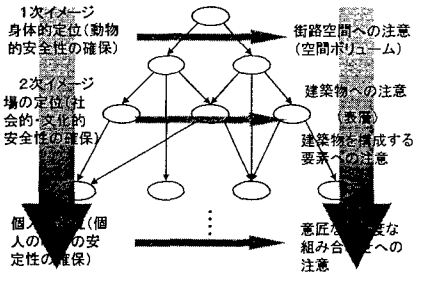
東北大学　学生員　○小野　公嗣
東北大学　正会員　　平野　勝也

1．はじめに

昨今の街路整備に目をやると，電線の地中化，歩道のカラー舗装などといった街路のうわべを取り繕うかのような整備ばかりが目につくように思われ，全国の街路整備が画一的になってしまう危険性を孕んでいると危惧せざるを得ない．また，街路を整備・設計する際にはそれぞれの街路の性格に応じた設計・整備法が必要となることは明らかである．その際，不自然な街路景観を形成しないためには，街路の性格による街路パタンを捉えることが重要であり，それぞれのパタンに影響を与える要因を明らかにすることが必要である．

既往の街路イメージに影響を与える要因分析を行った安藤ら[1]や奥[2]の研究では，街路構成要素の物理量により街路イメージがどのように変化するかを扱っており，街路のパタンに影響を及ぼす要因解明とはなっていない．街路のイメージ構造を扱った研究として，平野[3]は，店舗の内部活動情報に着目し，その情報量によって店舗のイメージが変化することを明らかにしているが，街路空間のもつイメージまでは言及できていない．

人間の潜在的な街路パタンを明らかにした研究として，篠原[4]は，街路の性格による分類から「格」という概念を創出し，各々の格を有する街路に求められるアメニティが異なることを言及し，今後は，街路の格に着目した街路整備を行うことが必要であると述べている．しかし，その分類過程が不透明であることが問題点として挙げられる．また，窪田[5]は，街路景観の潜在的なパタン分類を分類試験によって明らかにしている．しかし，人間がどのような判断基準によって街路をパタン分類しているのかを明らかにできていない．よって，今後は，潜在的な街路も含めた街路をパタン分類する際に影響する要因を体系的に整理することが必要であろう．



図－1　場の認識過程と街路空間への注意

本研究では，場の認識過程に影響する街路構成要素を体系的に整理することにより，街路のパタン分類に影響を及ぼす要因を明らかにすることとする．

2．街路分類モデルの提案

2－1．街路認識

平野[3]は，「人間が場を認識する際，場が発する安全性・安心感の確保のため，人間は場のイメージを捉えているとしている．その際，最も上位に位置するのが，身体的定位を決するための身体的安全性確保の情報であり，次いで，羞恥心を感じないよう，場の定位を決するための社会的安全性確保の情報が続く」としている．なお，この後の定位として，「より詳細な意味を問う文化的定位や個人の経験，知識に大きく依存する個人的定位が続く」としているが，今回は，日本人のもつ普遍的な街路パタンを取り扱うため，身体的定位，場の定位までで十分であると考える．

2－2．身体的定位

身体的安全性を確保するための情報として，空間ボリュームの情報が考えられる．芦原[6]によっても空間ボリュームの一つの指標となるD/Hが場のイメージを規定している一因となることが指摘され，定説となっている．

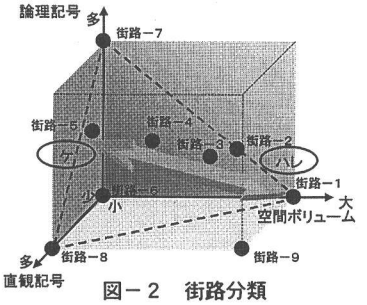
2－3．場の定位

街路空間において，社会的安全性を確保するための情報として，沿道建築物などの表層が発する内部活動情報が挙げられる．平野[3]の研究において，陳列商品などの直観記号や煽り文字などの論理記号の量によって，心理的距離が変化することが明らかとなっている．

以上より，人間の場の認識過程と，それに平行して行われる街路空間への注意を整理すると，図－1のようになり，上位の階層で街路空間から受け取る情報であると考えられる空間ボリューム，表層の発する内部活動情報が，街路の性格分類に大きく寄与していると考えられる．

2－4．街路分類モデル

今回のモデルにおいて，空間ボリュームは，D/Hと幅員をもとに，内部活動情報は，直観記号と論理記号とに分け，それぞれの情報量を定性的に整理することとした．これら3つの指標をそれぞれ軸として整理すると**図－2**のような3次元空間の図が得られる．街路イメージをこの3次元空間で考えると，例として，**表－1**のように整理することが可能である．それぞれの街路イメージは，例えば，**写真－1～8**のようになると考えられる．



図－2　街路分類

表－1　街路イメージ

	空間ボリューム	論理記号	直観記号	イメージ写真
街路－1	大	少	少	写真－1
街路－2	大	中	少	写真－2
街路－3	中	中	少	写真－3
街路－4	中	多	少	写真－4
街路－5	小	多	多	写真－5
街路－6	小	少	少	写真－6
街路－7	小	多	少	写真－7
街路－8	小	少	多	写真－8
街路－9	大	少	多	

写真－1

写真－2

写真－3

写真－4

写真－5

写真－6

写真－7

写真－8

平野[3]によって，「論理記号－直観記号」平面のイメージ分布は三角形分布となることが示されている．一方，**街路－9**は，空間ボリュームが大きいにも関わらず，看板が少なく，陳列商品が多く並ぶという市場的な街路イメージとなることが想像でき，日本の一般的な繁華街の街路空間として考えづらい．よって，空間ボリュームが大きい街路空間では，内部活動情報が多い街路は存在し難いと考えられるため，図中の破線で示された三角錐の内部に街路パタンが分布することが推測される．

街路－1は空間ボリュームが大きく，内部活動情報が少ないため，晴れやかな空間となると考えられる．また，空間ボリュームが小さい街路は，内部活動情報のバリエーションがあり，それぞれ横丁的，市場的などといった親近感のある私的空間となるであろう．このことから，図中で，晴れやかな街路空間と親近感のある私的な街路空間を結んだ線が「ハレ－ケ」「公的－私的」を表す心理軸となっている，と概念的に解釈できる．軸上に位置する**街路－3，4**も空間ボリュームと内部活動情報から，それぞれ，表通り的，裏通り的な街路空間となっていることが概念的に推測できるため，前述の心理軸による体系的な整理が可能であろう．また，三角錐の内部であっても，街路パタンが存在しない箇所が存在する可能性があり，空間ボリュームが規定する1次イメージと内部活動情報が規定する2次イメージには，街路パタンの文化的に安定的な組み合わせが存在すると考えられ，これが街路パタンのプロトタイプとなっていると考えられよう．

3．まとめ

定性的ではあるが，提案した街路分類モデルにより，街路パタンを体系的に整理することができた．今後，1次イメージと2次イメージの文化的に安定的な組み合わせから街路パタンのプロトタイプを明らかにし，**図－2**の空間内に存在すると考えられる「ハレ－ケ」で表現される心理軸により体系的に整理することで，篠原[4]の述べていた「街路の格」を論理的に説明することが可能であろう．また，今回は日本の繁華街街路を対象としたが，海外の街路にもある程度適用可能であると考えられる．

【参考文献】

1) 安藤直見，八木幸二，茶谷正洋：「都市中心部における街路イメージ分布」日本建築学会計画系論文集 No.497，p155-162，1997
2) 奥俊信：「街路景観要素の景観評価への影響について」，日本建築学会計画系論文集 No.351，p27-36，1985
3) 平野勝也：「街並みメッセージ論とその商業地への適用」東京大学学位論文，1999
4) 篠原修：「街路の格とアメニティ」，IATSS Review Vol.16,No2，p25－32，1990
5) 窪田陽一：「街路景観の類型に関する構造分析」，第18回日本都市計画学会学術研究発表会論文集，p331-336，1983
6) 芦原義信：「街並みの美学」，岩波書店，2001